

モーリタニア月例報告
(2018年11月及び12月)

2019年1月
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 11月 8日 新ウラマー養成所センター開設決定
- 11月20日 次期大統領選挙に係るアブデル・アジズ大統領の動向
- 11月22日 国民議会におけるバシール首相の施政方針演説
- 12月31日 ビラムIRA代表の釈放

【外政】

- 11月1日～2日 モロッコ外相の当地訪問
- 11月 3日 モーリタニアに対する米AGOA法適用中止決定
- 11月4, 5日 米AGOA法適用中止に対するモーリタニア政府コミュニケの発表
- 11月 6日 チュニジア首相の当地訪問
- 11月11日 アブデル・アジズ大統領の仏訪問
- 11月13日 ベルギー難民・移民担当閣外大臣の当地訪問
- 11月16日 サウジアラビア人ジャーナリストの失踪事件に係るモーリタニア外務・協力省コミュニケ
- 11月17日 ファール商業・工業・観光大臣のAU臨時首脳会合出席
- 11月18日 ジャイ経済・財務大臣のアルジェリア訪問
- 12月 2日 ムハンマド・サウジアラビア皇太子のモーリタニア訪問
- 12月21日 サル・セネガル大統領の当地訪問

【経済】

- 11月 1日 モーリタニア・セネガル国境沖合の海底ガス田開発：シェル社の将来事業計画の発表
- 11月 2日 世銀ビジネス環境ランキングの結果報告
- 12月11日 モーリタニア・セネガル国境沖合の海底ガス田開発：モーリタニア政府・トタル社間の複数協定の署名
- 12月13日 ECOWASとの協力協定に関する法律の閣議承認
- 12月17日 モーリタニア・セネガル沖合の海底ガス田開発：環境影響調査の結果報告

【開発協力】

- 1 1月26日 草の根・人間の安全保障無償資金協力案件署名式への清水大使出席
- 1 2月20日 草の根・人間の安全保障無償資金協力案件竣工・引渡式への佐藤参事官出席

【治安情勢】

- 1 1月 6日 モーリタニア国軍幹部の交代

【G5サヘル】

- 1 1月20日 G5サヘル合同部隊の現状に係る大統領コメント
- 1 2月 6日 G5サヘル首脳会合の開催

【内政】

- 新ウラマー養成センター開設決定（11月8日付独立系ニュースウェブサイト「アル＝アフバール」）

1 モーリタニア政府は、当地の北東300キロに位置するインシリ州アクジュージュト市にウラマー養成センターを新設することを発表した。これは、デディウ氏（Mohamed El-Hassan Ould DEDDEW）が運営していたヌアクショットのウラマー養成所センターの閉鎖から数か月後の決定であり、新設されるセンターの名称は「ウラマー養成のための模範宗教学校」となる。

2 イスラム・宗教教育省は、（閉鎖中の）養成センターをヌアクショットにて再開する方針だったが、大統領の意向によりアクジュージュト市にて新たな養成センターを開設することとなった。同センターの新設に際し、モーリタニア・ウラマー協会は3,000万ウギアを出資する。

3 10月22日には、エヘル・ダウド・イスラム・宗教教育大臣がマティエリー当地サウジアラビア大使と、同センター新設に関し協議し、同大使は新センターへの支援を表明したとされている。また、UAEも同様に支援を表明している。建物の賃貸契約、教師の募集等同校開設のための準備が行われている。

- 次期大統領選挙に係るアブデル・アジズ大統領の動向（11月21日付仏国際ラジオ「RFI」）

20日、アブデル・アジズ大統領が、当国南東部ワラタで開催された古都祭式典でのスピーチにおいて、自身の三期目立候補の考えがないと発言した。大統領のコメントは以下のとおり。

- 1 私は全ての訴えに気をかけている。任期回数制限を唱える者もいる。私

は、すべての意見に耳を傾けている。いずれにせよ、憲法を尊重させるためにこの場にいる。私は憲法を尊重し、憲法が2期を超えて立候補できないとする限り、私は立候補しない。

2 自分は、引き続きモーリタニアのために身を投じるし、モーリタニアに残り、政治活動を続ける。モーリタニアから出て行くつもりはない。私は（これまでと）同じ道を進む。憲法により自分の立候補が可能な状況となれば、すぐにでも立候補するだろう。もし三期目の任期に（連続で）立候補できないとしても、その後であれば立候補することはできる。憲法は、その後の私の立候補を妨げはしない。

●国民議会におけるバシール首相の施政方針演説（11月23日付当地政府系紙「オリゾン」）

22日に招集された国民議会において、バシール首相は施政方針演説を行い、モーリタニア政府がこれまでに実施した、治安、外交、経済、環境、地方分権化、司法、人権、エネルギー、交通インフラ、商業、行政改革、社会保障、スポーツ、農業、漁業、教育及び文化等多岐にわたる分野の政策及び今後の計画に関する報告を行った。同首相の施政方針の演説の要旨は以下のとおり。

1 冒頭

（1）国民議会において、今後の施政方針及びここ数年の政府活動総括を報告できることを極めて光栄に思う。

（2）2014年にアブデル・アジズ大統領によって掲げられた、「成長の加速化と共有される繁栄戦略（SCAPP）」の枠組みの中で実施中のプロジェクトの完了及び新たなプロジェクトの始動に政府は力を入れている。

（3）本報告は、過去4年間の成果及び2019年に完了予定のプロジェクト並びに2019年以降実施されるプロジェクトの報告である。本報告は、①国家基礎の強化及び公共ガバナンスの改善、②包括的成長を生み出す競争経済の樹立、③人材開発及び基礎サービスへのアクセス拡大の3本柱によって構成されている。

2 奴隷制

過去四年間、政府は、人権保護に関する国家政策を実施してきた。現代奴隷制排除のためのロードマップを適用し、これにより、法律文書の見直し、経済的・社会的権利保障の推進及び人権保護啓発を実現した。

3 外交（一般論、G5サヘル）

アブデル・アジズ大統領の下、モーリタニアの国益を見据えた効果的かつ能動的な外交政策により、モーリタニアの外交は近年著しい成功を収めている。外交活動の活性化は、第27回アラブ連盟首脳会議や第31回AU総会の開催等、

国際場裡における存在感の強化によって示されている。また、G5サヘルの結成や地域及び世界の平和と安定のためのG5サヘルの活動においても、モーリタニアは中心的な役割を果たしてきた。

4 保健

保健分野において、政府は保健状況の改善を優先課題としている。インフラ及び設備の強化のため100の保健ポストの建設や国立公衆衛生学校の増築（当館注：2016年度無償資金協力案件）等を実施した。

5 結語

（1）政府の綱領は、アブデル・アジズ大統領のビジョン実現のための継続的努力のダイナミクスの中に位置づけられ、近代国家の建設及び世界に開かれた、文明的価値に基づいた社会の構築を目標としている。モーリタニア国民によって幾度も示されてきたこのビジョンへの賛同に支えられ、この方針を継続することこそが、我が国の安定と発展を保証すると、我々は確信を新たにしている。

（2）国民議会議員の方々に対して、過去の貴重な成果の強化と、我が国の更なる発展や繁栄、安定に向かう新しい原動力となるような環境整備を主軸とした本プロジェクトへの支援をお願いしたい。

●ビラムIRA代表の釈放（2019年1月1日付仏国際ラジオ「RFI」）

1 12月31日、ヌアクショット南部州裁判所は、当地反政府系人権団体「反奴隷闘争復活イニシアティブ（IRA）」代表で現職国民議会議員のビラム氏（当館注：逮捕時は、同氏は国民議会議員立候補中）から誹謗中傷、恫喝及び憎悪扇動があったとの訴えをモーリタニア人ジャーナリストが取り下げたことを受け、ビラム氏の釈放を決定し、同日にビラム氏は釈放された。

2 客年8月7日にビラム氏は逮捕されており、逮捕の翌日には、同9月の国民議会選挙の候補者届け受領書の受け取りのために独立選挙委員会に行く予定であった。その後、選挙キャンペーン開始の2日前の同年8月13日に、ビラム氏は検察局に召喚されている。

3 ビラム氏は既に、本年6月に予定されている大統領選への出馬を表明している。同団体の活動家によると、ビラム氏による奴隷や（社会的）排除に対する闘争は国家権力にとって邪魔であり、当局は彼らを過激主義であると非難している。（ビラム）議員は今後国民議会において闘い続ける。

【外政】

●モロッコ外相の当地訪問

1 モロッコ外相の当地訪問（11月1日付当地独立系ニュースウェブサイト「ル・カラム」）

ブリタ・モロッコ外相が1日夜にヌアクショットに到着した。同訪問は、モロッコ、ポリサリオ戦線、モーリタニア及びアルジェリアが、西サハラ問題の交渉を実施するための新しいフォーマットが形成される文脈の中で実施される。同会合は、国連主導の下、ジュネーブで開催される。

2 モロッコ外相のアブデル・アジズ大統領表敬（11月5日付「オリゾン」）

（1）2日、アブデル・アジズ大統領は、大統領府において、ブリタ・モロッコ外相の表敬を受けた。会議後、ブリタ外相はモーリタニア通信（AMI）に対し以下のとおり述べた。

ア モハメッド6世モロッコ国王の特使として、二国間関係及び地域情勢に関する同国王の親書をアブデル・アジズ大統領に捧呈できたことを極めて光栄に思う。

イ 全てのレベルのモーリタニア・モロッコの二国間関係において、強いダイナミズムを構築したいとの共通の思いが双方にある。また、二国間及び両国民間の強力な絆を考慮し、それにふさわしいレベルまで二国間関係を推進するという所望も、同国王とアブデル・アジズ大統領の間で共有されている。

ウ 同国王や同大統領が期待しているこの（二国間関係）推進の枠組みにおいて、将来的に重要な変革がなされるであろう。

（2）また、同大統領は、自身の経験に基づく地域情勢に関する見解やこの地域においてモーリタニアが担う先駆的役割について述べた。

3 モロッコ外相のイスマイル外相表敬（11月5日付「オリゾン」）

2日、イスマイル外相は、当地を訪問中のブリタ・モロッコ外相と会談を行い、共通関心事項について協議した。

●モーリタニアに対するAGOA法適用中止決定

1 米通商代表部発表（11月3日付「アル＝アフバール」）

（1）3日、米通商代表部は、2019年1月よりモーリタニアに対して適用が予定されていたアフリカ成長機会法（AGOA）に関し、トランプ大統領が、同法に基づくモーリタニアに対する関税特権の付与を中止する決定を下した旨を発表した（当館注：AGOA（African Growth and Opportunity Act）は、関税免除によりアフリカ諸国から米への輸出を促進する目的で2000年に施行され、同年以降、サブサハラ地域諸国における米国の経済的関与の土台となってきた）。

(2) 同発表によると、モーリタニアが強制労働及び奴隷制度廃絶に向けた取組みにおいて成果を上げていないことが、今次決定の理由とされており、マホニー (Mr. C. J. Mahoney) 副通商代表は、21世紀において強制労働や奴隷制度が存続する余地はないと述べた。

2 本件に関するマハム政府報道官のコメント (11月5日付「アル＝アフバル」)

(1) 11月4日付コメント

ア 今回の米国の決定は、愚かで空虚なものである。

イ 我々は、米国からの支援を受けず自助努力によって奴隷制と闘ってきた政府である。

ウ 米国政府は、米国内の奴隷制にさえ関心を持ったことがあつたらうか。

エ トランプは、もし我々と1, 100億米ドルの武器取引を行うことが決まっていれば、今回のような決定を下したのだろうか。

(2) 11月5日付コメント

ア アブデル・アジズ大統領が必死に守り通してきたモーリタニアの主権に鑑み、我々は今回の米国の決定に対して反論しなければならない。

イ 今回の決定は、両国の友好関係に対する裏切りであり、他の人々が成し得なかった偉業を達成してきた我々の努力を無に帰すものである。

●チュニジア首相の当地訪問 (11月7日付「オリゾン」)

1 アブデル・アジズ大統領への表敬

6日午後、アブデル・アジズ大統領はバシール首相と共に、大統領府において、当地訪問中のシェーヘッド (H. E. M. Youssef CHAHED) チュニジア首相と会談を行った。会談後、シェーヘッド首相はモーリタニア通信 (AMI) に対し以下のとおり述べた。

(1) アブデル・アジズ大統領を表敬し、エセブシ・チュニジア大統領のメッセージを伝えた。

(2) チュニジア及びモーリタニアが様々な分野で共有してきた歴史的関係を更に強化・促進していく必要性を強調し、二国間協力関係のあらゆる側面を一つ一つレビューした。特に、経済面では、二国間の経済関係促進及びモーリタニアの再生可能エネルギー分野における可能性を再確認した。

(3) アブデル・アジズ大統領は、二国間関係を強化するために、あらゆる分野において (モーリタニアと) チュニジアが協議を続けていくことを強調した。

(4) 今般のモーリタニア訪問は、第18回モーリタニア・チュニジア合同委員会において重要な協定等に署名することを目的としているが、これは両国の指導者と国民の関係が素晴らしい基準にあることを物語っている。

2 バシール首相への表敬

6日午前、バシール首相は、第18回モーリタニア・チュニジア合同委員会出席のため当地を訪問中のシェーヘッド・チュニジア首相と会談を行った。

3 第18回モーリタニア・チュニジア合同委員会の開催及び協定等の署名

6日夜、大統領府において、第18回モーリタニア・チュニジア合同委員会が開催された。同委員会において、バシール首相はシェーヘッド・チュニジア首相と共に、二国間協力強化のための20件の協定、合意覚書及び執行計画に署名した。これら協定や計画は、工業、観光、水利、農業、環境、教育、文化協力、商業分野等、多岐にわたる。

●アブデル・アジズ大統領の仏訪問（11月12日付「オリゾン」）

11日、アブデル・アジズ大統領が夫人と共に、パリで開催された第一次世界大戦100周年記念式典、第一回パリ平和フォーラム及びマクロン仏大統領主催の晩餐会に参加した。なお、同大統領は、11日の記念式典参列前に、エリゼ宮でマクロン仏大統領に出迎えられた。

●ベルギー難民・移民担当閣外大臣の当地訪問（11月14日付「オリゾン」）

1 バシール首相への表敬

13日、バシール首相は、当地訪問中のフランケン（S. E. M. Theo FRANCKENE）ベルギー難民・移民担当閣外大臣と会談し、移民分野における二国間協力の方途につき協議した。

2 不法移民対策協定への署名

13日、アブデッラ内務・地方分権大臣は、当地訪問中のフランケン・ベルギー難民・移民担当閣外大臣と共に、不法移民対策協定に署名した。同協定は、モーリタニア・スペイン間で締結された治安協力協定（当館注：2015年5月26日、マドリードにおいて締結）と同様に、技術協力、情報交換、行政機関の能力強化研修支援等を通じた不法移住対策に関する二国間の協力を可能にする。

●サウジアラビア人ジャーナリストの失踪事件に係る11月16日付モーリタニア外務・協力省コミュニケ（11月19日付「オリゾン」）

1 モーリタニアは、サウジアラビア国民であるジャマール・ハショグジー氏の殺害事件に係るサウジアラビア王国最高検察庁によるコミュニケ及び同コミュニケで発表された措置を称賛する。

2 モーリタニアは、真実を明らかにし、司法を適用するために必要な全ての透明性を保障するとした、聖地の守護者であるサルマン・サウジアラビア国王

及びムハンマド・ビン・サルマン皇太子の、強固で真摯な意思に敬意を表する。
3 モーリタニアは、サウジアラビア司法の誠実性と信憑性に対する信頼を再確認するとともに、すべての者に対し、本件の政治化を避けるよう呼びかける。

●ファール商業・工業・観光大臣のAU臨時首脳会合出席（11月19日付「オリゾン」）

1 ファール商業・工業・観光大臣は、17日、アディスアベバで開催されたAU臨時首脳会合に参加し、アブデル・アジズ大統領の名の下、モーリタニアは、AU改革、中でも行政の円滑化及び財政管理の透明化を図る方策を重視する旨表明した。

2 同大臣は、同会合において、要旨以下のとおりスピーチを行った。

（1）アブデル・アジズ大統領からの挨拶をお伝えするとともに、アフリカ諸国の共同体としてのAUの将来のみならず、自然資源の豊かなこの大陸のすべての人々の将来及び国際社会におけるAU諸国の立場のためにも、この会合の成功をアブデル・アジズ大統領は念願している旨お伝えする。

（2）（アフリカ）連合の制度的構造の本質的な改革、経費の削減及び財政的自立のための財政支援により、我々の組織（AU）は柔軟で効率的になり、困難な国際環境の中で我々の大陸が直面している挑戦に立ち向かうことが可能となる。

（3）この大陸が抱える不法移民、テロリズム、失業、更には様々な紛争、低開発及び汚職（の問題）は、我々の豊かな大陸の発展と人々の幸福の大きな妨げとなっている。そのため、AUがこれらの課題を解決し、この大陸を発展させるためには、本質的な構造改革が急務である。

（4）モーリタニアは、アジェンダ2063年の目標達成に向けて実施されているAU改革に関する全ての措置を非常に重視している。この野心的な改革は、特に行政の円滑化及び財政管理の透明性の面で強化されなければならない。同時に、雇用の透明性や（アフリカ）大陸の様々な地域や国家の公平な代表性を保障するためにも、労働や人材の質の向上及び（アフリカ）連合の雇用メカニズムや規則の改定の実施が必要である。

●ジャイ経済・財務大臣のアルジェリア訪問（11月19日付「オリゾン」）

18日、ジャイ経済・財務大臣が、アルジェにて開催された第3回西地中海フォーラム・経済大臣閣僚会合に参加した旨報じた（当館注：通称「G5+5会合」。参加国は、地中海EU5か国（フランス、イタリア、マルタ、ポルトガル、スペイン）及び北アフリカ5か国（アルジェリア、リビア、モーリタニア、モロッコ、チュニジア）の計10か国）。同会合において、関税及び税制に関

する情報交換，気候変動やエネルギー分野での転換等に関連した投資等，経済財政に関する様々な議論が交わされた。

●ムハンマド・サウジアラビア皇太子のモーリタニア訪問（11月27日付「アル＝アフバール」他）

1 ムハンマド・サウジアラビア皇太子のモーリタニア訪問報道に対する反応（11月27日付「アル＝アフバール」）

（1）27日，バシール首相は，ハザーア駐モーリタニア・サウジアラビア大使と会談を行い，同会談では二国間関係強化の方途につき協議された。同会談は，数日後に控えたムハンマド・ビン・サルマン・サウジアラビア皇太子（以下，ムハンマド皇太子）のモーリタニア訪問を踏まえてのものである。

（2）情報筋によると，ムハンマド皇太子は，2日前に始まった同皇太子のアラブ諸国歴訪の一環として，モーリタニアを数日間訪問する予定。モーリタニアのSNS上では，ムハンマド皇太子のモーリタニア訪問を拒否するよう求める声が高まっている。

（3）モーリタニア・サウジアラビア二国間関係は，近年，極めて良好であり，特にモーリタニアが，湾岸諸国と共に，カタールとの外交関係断絶を決定して以来，両国の関係は強化されている。

2 首脳会談（12月3日付「オリゾン」他）

（1）2日，ムハンマド・ビン・サルマン・サウジアラビア皇太子がヌアクシヨット国際空港に到着した。

（2）アブデル・アジズ大統領は，ムハンマド皇太子のヌアクシヨット到着直後に同空港の貴賓室において同皇太子と会談し，共通関心事項及び二国間関係強化の方途について協議した。

3 二国間協定締結

同日午後，両国の関係閣僚は大統領府において，アブデル・アジズ大統領及びムハンマド皇太子立ち会いの下，以下の二国間協定を締結した。なお，同協定署名式の際，アワド（H. E. M. Awad Al Awad）サウジアラビア文化・情報大臣は，ヌアクシヨットにおける「サルマン・ビン・アブドルアジーズ王立病院（Hopital du Roi Selmane Ibn Abdel Aziz）」（総合病院）の建設計画を発表した。

（1）所得及び資産に係る二重課税免除並びに租税回避に関する協定

（2）水及び農業分野での了解覚書

（3）自然保護に関する了解覚書

4 共同声明の発表

同日，アブデル・アジズ大統領及びムハンマド皇太子は要旨以下のとおり共同声明を発表した。

(1) 二国間関係

2018年12月2日、アブデル・アジズ大統領の寛大な招待に対し、二聖都市の守護者であるサルマン国王の指示に基づき、ムハンマド皇太子のモーリタニア・イスラム共和国への公式訪問が実現した。この訪問に際し、モーリタニア及びサウジアラビアの二国間関係及びアラブ世界、地域、国際レベルでの共通関心事項が協議された。

(2) 二国間協力

兄弟国の友好関係を発展、強化する協定及び了解覚書を締結した。これらの協定は、(モーリタニアにおける)総合病院の建設計画やファイサル・モスク(当館注:サウジアラビアの支援で建設された当地最大のモスク)の改修に関する協定を含む、重要分野におけるものである。

(3) パレスチナ問題

アブデル・アジズ大統領及びムハンマド皇太子は、パレスチナ人の正当な権利に対する全面的支持を表明するとともに、1967年の境界線を国境とし、国際場裡における諸決定とアラブ諸国によるイニシアティブに基づいた、聖都エルサレムを首都とするパレスチナ独立国家建設を全面支持する。

(4) 地域情勢

ア アブデル・アジズ大統領及びムハンマド皇太子は、イエメン、シリア及びリビア問題に関し、各問題解決のための全面的支援を表明した。

イ アブデル・アジズ大統領は、サウジアラビアを脅かす全ての脅威及び同国に対する弾道攻撃を非難した。さらに、同大統領は、モーリタニア・イスラム共和国の名の下、イエメン国民の苦痛を取り除き、地域の平和と安定及び(同域の)航路を守るためのサウジアラビアの重要な取組を称賛した。

(5) 治安

ア アブデル・アジズ大統領及びムハンマド皇太子は、安全及び安定を侵害し、宗教的及び宗派的対立を引き起こす全ての政策に対し立ち向かう意向を再確認した。

イ アブデル・アジズ大統領は、サウジアラビアに対する偏った主張に基づいたキャンペーンを非難するとともに、アラブ人・ムスリムの利益、世界の安定、安全、平和への支援のためにサウジアラビアが果たしている中心的な役割を称賛した。

ウ ムハンマド皇太子は、アブデル・アジズ大統領の下、サヘル地域の平和と安定を保証するためになされている努力や発展、治安、開発といった分野におけるモーリタニアの先駆的な取組を称賛した。

●サル・セネガル大統領のモーリタニア訪問（12月24日付「オリゾン」他）

1 首脳会談

客月21日朝、アブデル・アジズ大統領は、ヌアクショット国際空港の貴賓室において、サル・セネガル大統領とテタテの会談を行った。同会談では、両国間の様々な分野での協力促進につき協議された。

2 モーリタニア・セネガル国境沖合海底ガス田（GTA）開発に係る最終合意

（1）客月21日、モーリタニア・セネガル両国大統領の立ち会いの下、GTA開発投資の最終決定に係る合意に署名された。今次署名式では、他にも以下の署名合意が行われた。

ア GTA開発関係者に対する課税に係る条約

イ GTAから採掘されるガスの販売に係る条約

ウ GTAの共同開発に係る条約

（2）右投資合意には、BP社及びKOSMOS社も署名を行った。またGTA開発プロジェクトに参画するモーリタニア及びセネガルの国営企業間でも融資契約の署名が行われた。さらにモーリタニア炭化水素・炭鉱資産会社（SMHPM）及びセネガル石油公社（PETROSEN）の間でも、共同融資取極への署名が行われた。

3 共同記者会見

（1）同日、両大統領は共同記者会見を行った。アブデル・アジズ大統領の発言概要は以下のとおり。

ア 友人であり、兄弟であるサル・セネガル大統領を心から歓迎するとともに、（サル大統領にとって）第二の故郷であるモーリタニアで、本日同大統領を迎えることができ光栄に思う。

イ モーリタニアとセネガルは地理的な隣人関係にあり、両国は利益・価値・運命を共にするとの認識の下、宗教的、文化的、経済的な長い交流の歴史に根付いた、多様かつ強固で、兄弟愛にあふれた関係である。

ウ （本年）2月にサル・セネガル大統領が当地を訪問した際に、GTA海底ガス田採掘に係る政府間協力合意の署名を実施した。本日のこの訪問により、同合意に関する文書全てに対して両国が署名するとともに、採掘に関わる企業が、投資に係る最終決定に署名するに至った。この歴史的機会を捉え、両国民と、BP社及びKOSMOS社の本プロジェクトに対する協力を称賛する。

エ GTA海底ガス田の共同採掘の決定は、我々が現世代と将来の世代に対し、英知な教訓と友愛に満ちた協力の素晴らしい例を示すものである。GTA海底ガスの採掘は、両国に新たな展望を与えた。必要な全ての準備及び措置は、両国の国営企業が採掘企業と共同で取り組み、最終的にこのプロジェクトが両国

民を最大限利するものとなり、我々の地域の更なる平和、治安、安定、発展及び繁栄の強化に貢献するためのものとなるであろう。

(2) サル・セネガル大統領の発言の概要は以下のとおり。

ア モーリタニアの友好的かつ熱烈な歓迎に感謝の意を表する。

イ 本日の意見交換によって、我々は新たな1ページを開くことができた。これは、両国民の貴重な利益のために、両国民に共通した繁栄をもたらすべきであるというアブデル・アジズ大統領そして私自身の考えによるものである。

ウ 今般の署名は、ガス資源の共同採掘のために開始した素晴らしい取組を、両国が手と手を取り共に団結して、継続するという共通意志の重要な一段階である。

エ アフリカにおいてこれらの資源が、資源の呪いを引き起こすものではなく、両国をつなぎ、平和と開発のファクターとなりえることを示すために、アブデル・アジズ大統領と共に、同鉱床の開発に尽力することを決断した。

【経済】

●モーリタニア・セネガル国境沖合の海底ガス田開発：シェル社の将来事業計画の発表（11月2日付「オリゾン」）

1 1日、シェル社は、石油・エネルギー・鉱業省がヌアクショットにおいて主催した会合において、モーリタニアにおける石油・ガス掘削と幹部育成を目的とする将来的な事業計画を発表した。

2 同会合では、モーリタニア沖のC-10及びC-19鉱区におけるエネルギー資源埋蔵量測定のためにシェル社が実施した地震探査の報告が出席者に共有された。また、シェル社は、6月にモーリタニア政府とシェル社間で結ばれた協定に従って、職員の育成及び幹部に対する研修に係る計画を提示した。

3 同協定において、石油資源を開発し、モーリタニアを長期的経済プロジェクトへの巨額投資先とすることで、同国の地位を強化することが見込まれている。

●世銀ビジネス環境ランキングの結果報告（11月5日付「オリゾン」）

1 2日、経済・財務省は、2019年の世銀ビジネス環境ランキング（Doing Business）の結果発表のための会合を開催した。モーリタニアは、2019年ビジネス環境ランキングにおいて、190か国中148位と評価され、前年の150位よりも2つ順位を上げた。

2 ジャイ経済・財務大臣は、2018年の経済成長率が想定（3.0%）を上回り3.5%となった旨、また、近年実施されている経済政策の効果により、インフレ率が2017年以降2.7%前後で安定しているため、同成長率は2

019年には4.5%に上ると予想されると発表した。

●モーリタニア・セネガル国境沖合の海底ガス田開発：モーリタニア政府・トタル社間の複数協定の署名（12月12日付「オリゾン」）

11日、鉱物・石油・ガス分野の展示会及び会議（Mauritanides）のマージンにおいて、アブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣はモリス（Mr. Guy MAURICE）仏トタル社アフリカ局長と共に、3つの協定に署名した。3つの協定のうち2つは、モーリタニア沿岸の海底ガス田C13及びC15区画におけるガス田採掘及び生産に係るものであり、残りの1つはネマ市及びキファ市における太陽エネルギー活用支援のために500万米ドルを投資するものである。

●ECOWASとの協力協定に関する法律の閣議承認（12月14日付「オリゾン」）

13日にヌアクショットで行われた閣議において、2017年5月5日にモーリタニアとECOWAS間で署名された協力協定を承認する法案が採択された。なお、同協定は2014年3月29日のECOWAS首脳会合で締結を認可され、客年5月5日に、ヌアクショットで署名されている。

●モーリタニア・セネガル沖合の海底ガス田開発：環境影響調査の結果（12月18日付「オリゾン」）

117日、カマラ環境・持続可能な開発大臣は、ヌアクショットにて同省及び英BP社が開催した会合で、GTA開発第一フェーズの環境影響調査の結果を発表した。同調査結果は、60万立方メートル分の土砂浚渫及び250万立方メートル分の岩石の採取から、船舶の爆発リスク、（海洋）プラットホームの廃棄、掘穿泥水、さらには捨石輸送及び運搬作業への影響についてまで、全ての計画を対象としている。また、同大臣は、環境保全の観点から、オフショアにおける石油・ガス採掘と漁業資源開発を両立させる方法を考えなければならないと強調した。

2 エル・マン（Mr. Mohamed Ould EL MANE）BP社代表は、（GTA）計画オペレーションを始動するための環境的な側面からの認可取得がプロセスの終わりなのではなく、許可取得はむしろ、継続した環境的及び社会的調査を含む、合意された活動の始まりとなる旨発言した。

【開発協力】

●草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「ベイルーゲ・リタム市中学校整備計画」署名式への清水大使の出席

11月26日、清水大使は、平成30年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力「ベイルーゲ・リタム市中学校整備計画」の贈与計画書署名を実施した。本支援により、3教室、手洗い場付トイレ、守衛室の建設、生徒と教員への教育備品及び守衛室備品が供与され、ベイルーゲ・リタム市中学校の生徒及び教職員の教育環境の改善が期待される。



●草の根・人間の安全保障無償資金協力「ガンキ市保健ポスト整備計画」引渡式への佐藤参事官の出席

12月20日、佐藤参事官は、平成29年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力「ガンキ市保健ポスト整備計画」の竣工・引渡式に出席した。本支援により、新保健ポスト本棟並びに焼却炉の建設、外壁及び医療機器の整備が実施され、ガンキ市の住民10,000人が受ける医療サービスの質の改善が期待される。



【軍事・治安情勢】

●モーリタニア国軍幹部の交代（11月7日付「オリゾン」）

6日付大統領府コミュニケにより、ガズワニ国軍参謀総長が退任し、ムハンマド・シェイク・ムハンマド・ラミーン（Gen. Mohamed Cheikh Mohamed LEMINE）参謀副総長が参謀総長に、そしてイセルク・シェイク・エルワリィ（Gen. Isselkou Cheikh EL WELY）海軍司令官が副参謀総長に各々昇任した。

【G5サヘル】

●G5サヘル合同部隊の現状に係る大統領コメント（11月21日付仏国際ラジオ「RFI」）

当国南部ワラタで開催された古都祭式典に出席したアブデル・アジズ大統領が、20日付のインタビュー記事の中で、以下のとおりG5サヘル合同部隊の現状を擁護する同大統領のコメントを報じている。

1 MINUSMAは、今年10億米ドル以上の予算を費やし、1万3,000人以上の兵士が従事している。G5サヘルのミッションとMINUSMAのミッションを比較してみると、G5サヘルが失敗していないことは明らかである。まず、（G5サヘルは）資金がない中で、（G5サヘルが有する）限られた資金で（ミッションを）実行している。MINUSMAが巨大な資金を持ち、1万3,000人の兵士を有する一方で、我々は、多くの約束をしながら、できることを実行している。

2（G5サヘル合同部隊編成に対するモーリタニアの取組、特にベイカトルアハワーシュ（当館注：当地南東部ネマ市近郊のマリとの国境付近）の同部隊司令基地の進捗が滞っているのではないかと、というRFIからの質問に対し、）この戦いは司令基地によって実現するわけではない。基礎インフラによって実現するわけでもない。装備や兵士たちにより実現するのである。我々モーリタニア軍の準備は既に92%整っている。確かに、司令基地の建設が完了したわけではないが、我々は司令基地を手にして戦うわけではない。

●G5サヘル首脳会合の開催（12月7日付「オリゾン」他）

1 6日、ヌアクショット国際会議場において、G5サヘル首脳会合が開催され、アブデル・アジズ大統領は、イスフ・ニジェール大統領、デビー・イトゥノ・チャド大統領、カボレ・ブルキナファソ大統領、サンガレ・マリ国防・退役軍人大臣、シディコG5サヘル事務局長及び関係大臣並びに米・EU・欧州各国・サウジアラビア等の地域援助機関の代表等と共に同会合に出席した。同会合において、G5サヘル諸国への「2019-2021年優先投資計画」に対する融資について協議され、同諸国に対する支援パートナーからの約20億ユーロの拠出が発表された。また、この拠出に加えて、サウジアラビアが5,000万米ドルをG5サヘル合同部隊に対して拠出することが発表された。

2 アブデル・アジズ大統領のスピーチ

同会合において、アブデル・アジズ大統領は要旨以下のスピーチを行った。

（1）ヌアクショットにおいて、本会合を開催でき、至極光栄に思う。

（2）2014年にヌアクショットで設立されたG5サヘルは、我々のサヘル地域が直面する治安上の脅威や増大する開発課題に対処するため、各国首脳の

リーダーシップの下、一致協力して、必要措置を講じ成果を挙げた。

(3) 貧困、失業、非識字問題、不正義や無力感、幸福感の欠如、麻薬密売の放任、国家が担うべき数多くの責任の欠如により、テロリストや過激主義者の勢力伸長を許し、さらには彼らの異常なイデオロギーや宗教観に影響を受けやすい者たちと彼らをつなぐような不安定な状態を生みだしている。過激な暴力を完全に根絶するために、人質解放のための身代金の支払いは断固として拒否すると同時に、質の高い教育へのアクセスの拡大、雇用創出、真の法の支配の実施、尊厳のある適切な生活の保障、ガバナンスの改善及び包括的かつ持続的開発の促進に対する大いなる努力が必要である。

(4) 優先投資計画は、治安や防衛以外にも、インフラ、ガバナンス、開発及びレジリエンスを対象としており、2019-2021年の三か年優先行動計画として再策定した。越境性、実現可能性及び安全、成長、市場拡大、雇用創出、人々のレジリエンス及びガバナンス改善に効果的な側面を持つ行動が選択された。

3 イスフ・ニジェール大統領のスピーチ

G5サヘル議長の名の下、イスフ・ニジェール大統領が閉会式のマージンで開かれていた記者会見において行ったスピーチ概要以下のとおり。

(1) G5サヘル議長として、パートナー及び支援者の真摯な協力と治安及び開発分野におけるG5サヘルへの期待及び関心に対し、感謝する。

(2) 本会合は、パートナーや投資者に対して優先投資計画の目的及び詳細を公表するものである。

(3) 同計画は、貧困及び低開発水準といった同地域の人々が立ち向かう課題に対処するために、最も重要な治安（分野）に加えて、ガバナンス、インフラ及び人材育成の4つの柱から形成されている。

(4) ここ数年のテロリストの脅威から（サヘル）地域の安全を取り戻すことを目的として合同部隊が結成された。サヘル（地域）の安定化は同地域の危機から生じた結果への対策なくして実現しない。

(5) （同会合において約束された融資に係る質問に対し）サヘル諸国は、パートナー（諸国や団体）が開発及び約束を尊重すると確信している。

(6) （テロリズムに対するモーリタニアのアプローチに係る質問に対し）モーリタニアは、G5サヘルの活動開始の基礎を構築し、常設事務局を守り、国防学校を有し、現在も合同部隊の司令を遂行する等、隊において多大な貢献をしており、モーリタニアの（これらの）役割はオペレーション実行に必要不可欠である。

4 アブデル・アジズ大統領がマージンで行った会合等

(1) イスフ・ニジェール大統領、デビー・イトウノ・チャド大統領、カボレ・

ブルキナファソ大統領、サンガレ・マリ国防・退役軍人大臣及びル・ドリアン
仏外務大臣

(2) ル・ドリアン仏外務大臣

(3) ミミカ (Mr. Neven MIMICA) EUの国際協力・開発委員

(4) ガイ (Ms. Diarrietou GAYE) 世銀アフリカ地域戦略・オペレーション局長

(5) ジャン (Ms. Michaëlle JEAN) フランコフォニー国際機関事務総長

6 締結された協定等

(1) EU

ジャイ経済・財務大臣はミミカEU国際協力・開発委員と共に、以下の3つの
協力協定に署名した。3つの協力協定による支援合計額は4億770万ユーロ。

ア 包括的で持続可能な成長促進、公共財政管理の強化及びガバナンスの改善
を目的とした協定（支援額：2,500万ユーロ）

イ 持続可能な農業及び牧畜関連産業の開発の促進を目的とした協定（支援
額：1,800万ユーロ）

ウ 紛争予防及び文化間対話促進を目的とした協定（支援額：440万ユーロ）

(2) フランス

ジャイ経済・財務大臣はル・ドリアン仏外務大臣と共に、地方開発に係る協定
に署名した。同協定は、地方開発及び（当国南部に位置する）ゴルゴル州、ア
ッサバ州及びギディマカ州の地方自治体支援を目的としており、支援額は、1,
122万5千ユーロである。

(3) ニジェール川流域機構

シディコG5サヘル事務総長は、ハミド (Mr. Abdel Rahim Bierm HAMID) ニジ
ェール川流域機構事務総長と共に、ニジェール川流域における開発計画に係る
両機関の協力を目的とした大枠合意に署名した。

(了)